

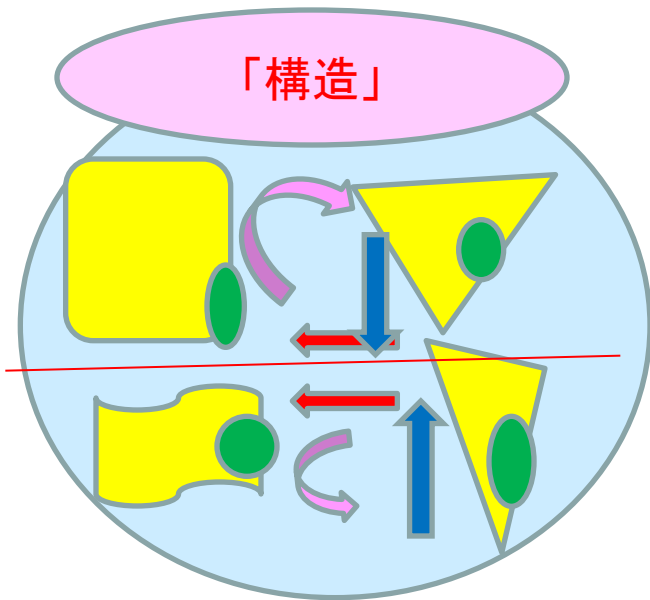
「太陽と地球と文化」の「FW」 「雨と気候」から文明・文化論へ

「社会」
☆☆☆☆

☆ CR:kanaoka

「構造」から「構想」としての文明論

「地図」



「原理」

「道德・宗教」

「和」「身近な神」
「独立」「天の神」

多い・少ない
水蒸気

降雨

海
暖流・寒流

多い・少ない
産業・社会

定住・移動

* 赤は定住型・黒は移動型

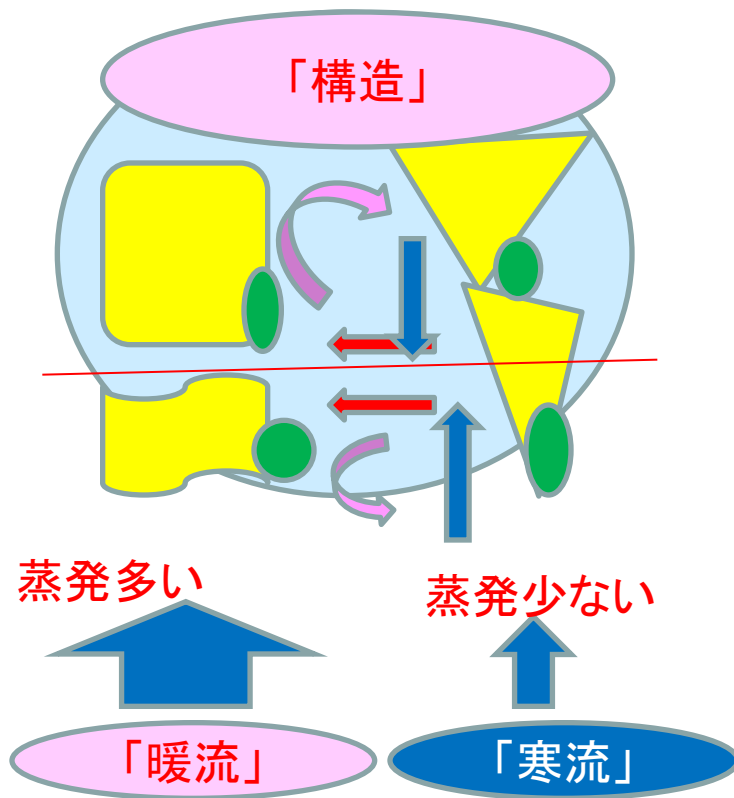
稲作・放牧

「構造」・・・自転により海流が決まる・・・海流の温度で雨量が決まる・・・地球上の位置で気温が決まる・・・その場の産業が決まる・・・またそれで社会の様子も影響を受ける

「社会の様子と文明論」・・・気温が温暖で雨量があると、農業が盛ん・・・その地に住みやすくなる・・・定住型社会となる・・・女性の活躍(子育てを農業従事)・・・女性の地位が保全・・・道德も定住型(皆と仲良く「和」)・・・神も定住型(土地の神様)・・・意識も定住型(ふるさと意識・世界意識にはなりにくい)

「補足解説1」・・先の「総合FW」理解のための 理解基礎・・「雨と気候・・海流編」

「地図」



「解説」

海流は、地球自転で起こる・・海面での流れは、自転の反転で東から西へ、島や大陸があるとそこで北上し(北半球の場合)、赤道の暖流が北に流れ、暖かい水は水蒸気を生じて、雨を多く降らせる。だから、大陸の東岸は暖かく多雨となる。

。 反対に、大陸の西岸は、赤道に向かって極からの海流が流れ込むので、寒冷で水蒸気の蒸発の少ない気候となる。(水平対流)

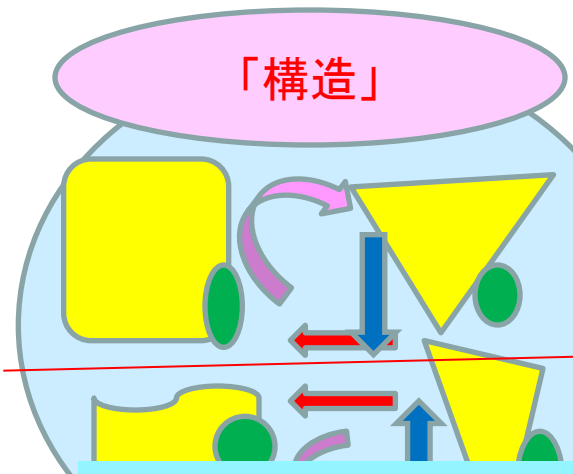
(上下対流は温度差でそれなりの大きな動きがあり、海底では極から赤道に流れる大きな流れがある・・潜水艦ではこの流れが東西・垂直対流)、

☆ CR:kanaoka

「補足解説2」・先の「総合FW」理解のために 「気候と産業・居住」

☆ CR:kanaoka

「地図」



「解説」

- ①気候が、温暖・多雨なら、農業が可能で、定住するようになる。・移動というのは大変(財産の蓄えが出来ず、しかも、敵にあうこともある)
- ②そうして村(群れから発展)が出来、住民は永く同じところに住むこととなる。しかも、かなりな数が集まるので、孤独的な生き方は出来ない。
- ③ここでは、他者との協力が必要となり、「我」よりも「和」の道徳が尊重される。「個の独立」はどうしても後となる。大陸東岸の文化は「協力」文化だ。

「解説」・それに対して、

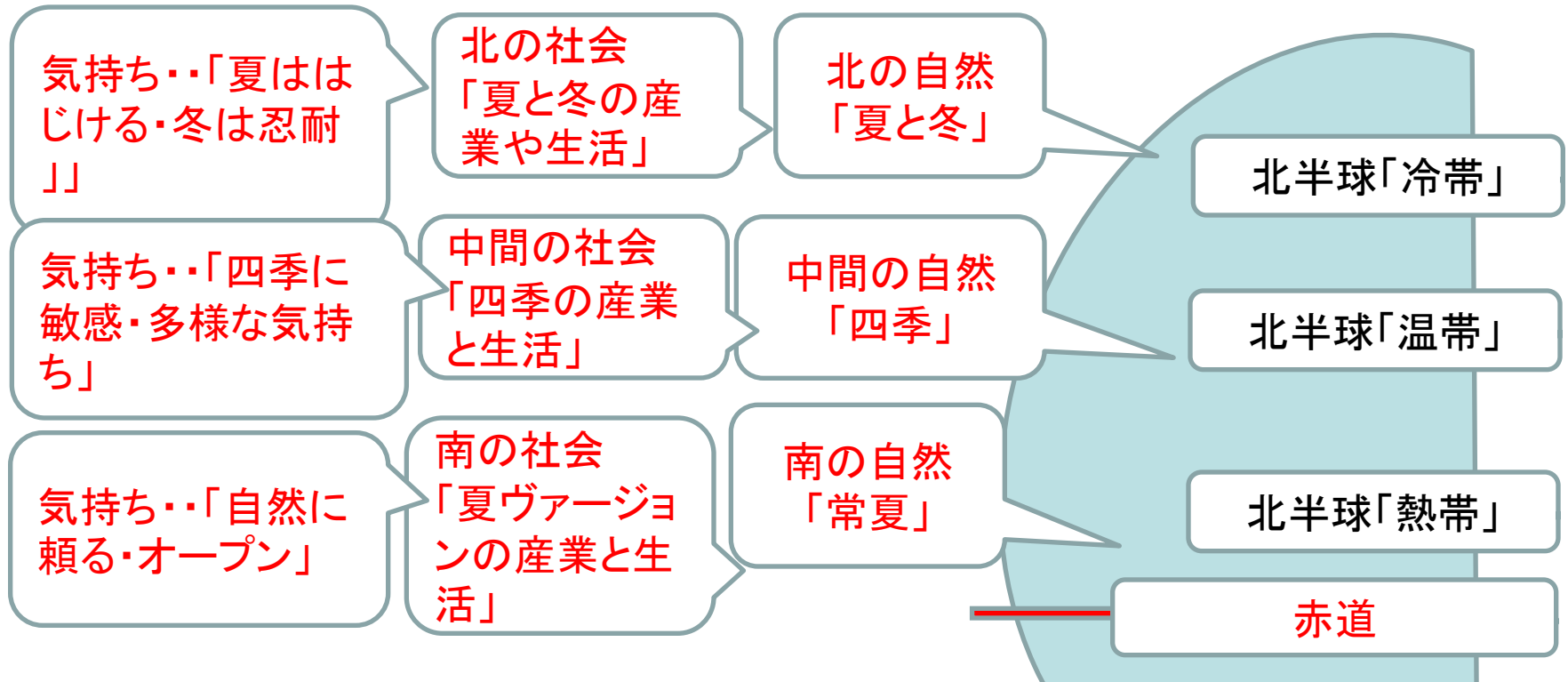
- ①気候が、冷涼か、小雨なら、植物の生え方もまばらとなり、人は定住することがむつかしく、移動型となる。
- ②財産を持ち歩き、敵との遭遇に構え戦闘的になる。
- ③意識や文化は、「個の独立」「他者との競争」となる。
- ④ついでに、信仰で崇拝する神も、土地を離れて「天」に居ることとなる。(天はどこにいても在るから)

「補足解説3」・先の「総合FW」理解のために

・暗記だと思っている地理学習の改善のために利用を・

・地球の場所を「自然・社会・心理」で見る

☆ CR:kanaoka



「問題」・次の問に北・中間・南で考えよう・ ①服がよく売れるのはどこ？ ②「光」の文化（ランプの発達）はどこ？ ③北の人が南に行った時に気を付けることは？